



57. マツカワ *Verasper moseri* Jordan and Gilbert 図版22

英名 barfin flounder

露名 ウェラスベル モーゼラ
вераспер Мозера

地方名(北海道) タカノハ、タカノハガレイ、カンタカ、タンタカ、
タカガレイ、ヤマブシガレイ、クロスジカレイ

漢字 まつかわ たかのがれい くろすじがれい
松皮、鷹羽鱈、黒條鱈

アイヌ語名 シュンヤサマンペ、シサマンペ、コンプサマンペ、
オタサマンペ、タンタカ

【形態】 体は側扁*し輪郭は楕円形で、体高*が高い。口はやや大きく、上あごの後端は眼の中央下に達する。歯はにぶい円錐形で、上あごに2列、下あごに1列並ぶ。うろこははがれにくく、有眼側*では櫛鱗*、無眼側*では大部分が円鱗*である。側線*は胸びれの上方で大きく湾曲し、前方へ1本の分枝を出す。尾びれの後縁は丸い。背びれに6~8本、尻びれに5~7本、尾びれに2~8本の黒色の幅広いしま模様*が等間隔にある。

有眼側の体色は雌雄ともやや黄色みを帯びた暗褐色。成魚*の無眼側は橙黄色から白色で、数個の明瞭な黒点を持つものもある。なお無眼側が橙黄色の

ものが雄、白色のものが雌とする人もいるが、実際には白い雄もあり、さらには人工種苗*では橙黄色の雌も出るなど、無眼側の色による雌雄の判別は難しい。

雄は全長*50cm、雌は80cmに達する。

近縁種のホシガレイ *Verasper variegatus* とよく似る。本州太平洋沿岸で水揚げされたマツカワは、しばしばホシガレイとして取引される。ホシガレイは背びれ、尻びれ、尾びれの模様が円い暗色斑*であり、雌雄とも無眼側の体色は白色である。

【生態】 茨城県以北の太平洋沿岸、若狭湾以北の日本海沿岸、北海道周辺、千島列島近海、オホーツク海南部から沿海地方にかけて分布する。日本では北海道太平洋沿岸に主に分布する。

産卵期はこれまで11～翌1月とされてきた。しかし、かつて4～6月に抱卵*個体が漁獲されていたという漁業者からの情報や、6月に成熟*個体が漁獲された記録、さらに人工種苗生産では3～5月に採卵していることなどから、北海道太平洋沿岸における産卵期は3～6月と考えられる。

産卵場所は水深数mから数十mと推定されている。抱卵数*は33万～125万粒。卵巣1g当たりの卵数は250～350粒。卵は分離浮性卵*で、直径は1.7～1.9mm。卵は比重が海水に近いので、海中では中層に漂うか沈む。水温7～10°Cでは受精後7～10日でふ化する。ふ化仔魚*は全長3.7～4.8mm。ふ化後約10日で全長6～7mmとなり口や肛門ができる。30日目ごろ9～10mmとなり、着底*が始まる。変態*は40日目ごろ11～17mmで始まり、50日目ごろ約20mmで終わる。

天然魚の生態はよく分かっていない。人工種苗を標識放流*した結果では、全長10～12cmの0歳魚を秋から冬にかけて放流した場合、1歳の冬に全長約30cm、体重0.4kg、2歳の冬に約40cm、1kgとなる。その後はほかのカレイ類と同様に雌雄で成長の差が生じ、雌の方が大きくなる。3歳以降は再捕*例が少ないため成長はよく分かっていないが、飼育では3歳の雄で約45cm、1.5kg、雌で約50cm、約2kgとなり、初めて産卵する。

噴火湾で放流された人工種苗は、2歳の春に日本海側の岩内や北海道東部の釧路で再捕された例はあるが、2歳の秋までは、湾内で大部分が再捕されることから、定着性が強いらしい。その後、湾内での再捕は減り、噴火湾を除く胆振地方の太平洋沿岸、日高地方、青森県から茨城県にいたる本州太平洋沿岸での再捕が多くなる。2歳の秋までは水深数m～数十mに分布するが、その後、冬には200mより深い所へ移動し、春には産卵のために岸に寄るといった季節的な深淺移動を繰り返す。

オホーツク海側の能取湖^{のどろ}や網走で放流した場合も、1～2歳時に北海道北部の稚内、日本海側の小樽、日高地方の浦河へ移動した例はあるが、ほとんどは放流地点から40km以内で再捕される。

1歳まではアミ類*、コツブムシやヘラムシなどのワラジムシ類*、エビジャコ類*、ヤドカリ類などの甲殻類を主な餌とする。2歳以降は、これらの甲殻類に加え、カタクチイワシ、ハタハタなどの魚類も食べるようになる。